Ⅳ　最終まとめを終えて

平成２５年度に実施した本市高等学校改革の評価・検証結果を改めて整理すると、次のとおりとなる。

１　中間まとめにおける改革の課題への対応

（１）学校の特色や改革の成果等のアピールについて

両校とも各種説明会、学校公開、近隣小・中学校との交流活動等の実施に加え、市立千葉高校では、千葉都市モノレール車両の車内ポスターによる研究成果の発表や、同モノレール千葉駅構内での生徒の作品展示、SSH専用ホームページの開設等を行った。

また、市立稲毛高校・附属中学校では、千葉市教育研究会国際理解部会の開催に向けた協力や、市内中学校職員の初任者研修における授業公開、文化祭で好評を得たエイサーと三線演奏を地域でも披露するといった積極的な活動を行った。

（２）市立稲毛高校・附属中学校の施設設備の改善について

昨年度まで、部活動等の活動場所については、千葉市中央卸売市場のグラウンドを借用し、対応していたが、平成２８年度より、隣接する高浜第二小学校跡施設の校庭と体育館を附属中学校で活用することとした。

２　改革の成果

（１）市立千葉高校における主な成果

①　進学重視型単位制の導入に伴い、教員の加配が認められ、多様な選択科目の開設やSSHなどの特色ある教育が可能になった。

②　「充実した施設・設備」に対する満足度が高く、「１日７限授業」や「生徒の学習ニーズに対応した選択教科」の導入が、生徒の学ぶ意欲の向上につながった。現役生の４年制大学への進学率や国公立大学合格者数は、順調な伸びを示している。

③　理数教育の伝統や成果が生徒へ十分に浸透しており、理系大学に進学を希望する生徒の比率が高く、実際に進学する生徒も多い。

④　文武両道の伝統は引き継がれ、生徒は自覚と自信を持ち、部活動や行事に参加し、主体的に活動を行っている。

（２）市立稲毛高校・附属中学校における主な成果

①　「真の国際人を育成する中高一貫教育」「中高６年間の継続的な指導」「先進的な英語教育」は、生徒・保護者・卒業生に高い満足度が得られている。

②　先進的な英語教育と６年間の継続的な指導により、高い英語力とコミュニケーション能力が育成されている。

③　進路実績において、現役生の４年制大学への進学率や国公立大学合格者数は順調な伸びを示している。

④　部活動や学校行事等、６年間のつながりを生かした中高共同の活動が充実しているため、入学前の期待度以上に高い満足度が得られている。

「基本方針」に基づく本市の高等学校改革は、良好な成果を収めている。

① 市立千葉高校及び市立稲毛高校・附属中学校は、進路ニーズや教育ニーズの多様化へ適切に対応できており、生徒・保護者・卒業生に高い満足度が得られている。

② これまでの文武両道の教育の伝統と、市立千葉高校における「多様な進路ニーズに対応した進学重視型単位制」及び市立稲毛高校・附属中学校の「真の国際人の育成を目指す中高一貫教育」という改革の特色が調和し、良好な成果を収めている。

③ 教育活動に対する行政の支援と、教育熱心な教職員の指導の下、質の高い授業が行われ、生徒が積極的に授業に参加していることにより、教育効果が上がっている。

３　課題

（１）市立高等学校改革の成果等におけるさらなるアピール

・市立高等学校の成果や効果をより地域全体へ波及させるために、積極的な授業公開や文化祭の開催時期を検討するとともに、地域との連携を強化し、外部の学校や教育機関にも成果の発信をする必要がある。

（２）市立高等学校改革の実効性を高める上での優秀な人材の確保

・改革後７年が経過し、改革当初から勤務する教職員は、異動により入れ替りが生じつつある。今後も、先進的な理数教育や英語教育を継続していくためには、引き続き優秀な教職員を確保することが必要であり、公募制の実施に向けて検討する必要がある。

・実効性のある取組が可能となるように、教職員の増置など配置の改善や実施方法の工夫が必要である。

（３）教育課程上の課題に対する手立て

・市立千葉高校における進学重視型単位制のメリットを更に生かし、達成度テスト（仮称）など大学入試改革に対応した教育課程の編成に向けた検討を行う必要がある。

・市立稲毛高校においては、平成２５年度から普通科の教育課程が統一されたことに伴い、内進生と外進生の学習進度の違いを考慮した、中高の教育内容全体を検討していくことが必要である。

（４）教育委員会事務局の組織体制の強化

・課題への対応を図り、より魅力ある市立高等学校づくりを推進するために、教育委員会事務局の組織体制の強化や学校とのより強い連携が必要である。

〈検討すべき主な課題〉

短期的に対応を必要とするもの

○学校の成果等についてのさらなるアピール

○有意義な教育課程の編成を行える環境の整備

○進学校としての部活動と家庭学習時間の確保

中・長期的に検討を必要とするもの

○優秀な教職員の確保

○教育課程上の課題への手立て

・単位制のメリットをより生かした、発展的な授業編成等の検討(市立千葉高校)

・内進生と外進生の学習進度の違いを考慮した中高の教育内容全体の検討(市立稲毛高校・附属中学校)

○教育委員会事務局の組織体制や学校との連携の強化

○第２期SSH後における理数教育成果の継続(市立千葉高校)

○附属中学校の入学者選抜のあり方(市立稲毛高校・附属中学校)

４　今後の方向性

平成１７年６月に策定した「千葉市立高等学校改革基本方針」に基づき、市立千葉高校及び市立稲毛高校は、「多様な進路ニーズに対応した進学重視型単位制高等学校」と「真の国際人を育成する中高一貫教育校」に生まれ変わった。

そして、改革後７年が経過し、SSH事業や海外語学研修をはじめとする国際理解教育の成果等により、生徒の進路実績や学校生活に対する満足度が両校とも上昇している。

一方、平成２３年６月に本市では、「科学都市戦略事業方針」を策定し、「科学都市ちば」の実現に向けた取組を推進している。そのためにも、市立千葉高校は、今後、千葉市における小・中学校の理数教育をリードする役割を担い、理数教育の核となる学校を目指すことが求められており、その役割は一層重要なものになっている。

また、昨年、文部科学省では平成３２年の東京オリンピック・パラリンピック開催を見据え、新たな英語教育が本格展開できるように、「グローバル化に対応した英語教育改革計画」を公表し、英語教育の体制整備を行うとともに、日本人としてのアイデンティティに関する教育の充実を推進している。すでにグローバル化に対する先進的な取組を行い、高い成果を上げている市立稲毛高校・附属中学校においては、今後も「真の国際人を育成する教育」に励み、より発展することが期待される。

この「最終まとめ」では、これまでの成果と課題を改めて洗い出してきたが、この検証を踏まえ、これからの市立高校のあり方やその姿を実現していく上で必要となる対応を検討していく必要がある。